

博士

第9期OB 竹内 亮介

少し前の出来事となりますが、2019年11月に晴れて、博士号の学位を取得することができました。直前に竣工したばかりの新・日吉記念館が会場ということもあり、2020年3月の学位記授与式を楽しみにしていたのですが、やむを得ず、新型コロナウイルスの影響で式は中止となりました。しかし、その代替措置として、YouTubeの慶應義塾オフィシャルチャンネルでライブ配信が行われることになり、その様子をスマホで眺めるという形で式に参加することはできました。これはこれで、2020年ならではの特殊な思い出になっております。

博士という言葉からは、ある専門分野について「何でもよく知っている」という印象を思い浮かべる方々も多いかもしれません。確かに、小野ゼミに入会した2011年の自分、大学院に進学した2013年の自分と比較すれば、数年を経た今、専門分野について知っていることは飛躍的に増えました。ところが、多くのことを知るようになると、それまで存在にすら全く気付いていなかったことが、芋づる式で現れるようになります。実際は、以前から存在していた知らないことが明確になっただけなのですが、感覚としては、数年の間で、知らないことも飛躍的に増えたような気になるのです。

こういった理由から、博士なるものは、「何でもよく知っている」状態からは程遠いですよ、というのが当事者としての率直な見解です。学ぶべきことは本当に尽きません。これからも、「何でもよく知っている」状態にほんの僅かでも近づこうとしては遠ざかる日々の繰り返しがあるのみですが、そんな終わりのなき一進一退と向き合っていきます。



新時代の学位記授与式（会場は新・日吉記念館）